

# 第70回日本クラブソフトボール大会開催運営要領

2023年5月17日(水)

## 1) 本 部

イ) 本部を設置し、試合進行運営等は本部にて行う。

- ロ) 本部担当 総 幹 事：藤田博史運動部長（藤田商会）  
幹 事：所靖運動副部長（理研ビタミン）  
〃：滝波雅元運動副部長/佐藤副部長代理、大久保副部長代理（竹中工務店）  
〃：栗原正直委員（リビングホテルデメディチ）  
審判委員長：建内政元（NX ドイツ）  
審判委員：市川専（三菱商事）  
輪番幹事：板垣泰二郎（第67回優勝 やまと）  
〃：石川壱成（第67回準優勝 J&J's）  
〃：藤原はるな（第68回優勝 J&J's）  
〃：湯川時生子（第68回準優勝 BLG White Wolves）  
実行委員：岡田浩治・土井康一（三菱商事）、平形涼（三井物産）、丸山佑樹・檜崎大貴（ドイツ住友商事）、高橋将（富士フィルム）、大矢将登（日立ヨーロッパ）天部健（MUFGバンクヨーロッパ）、辻尾洋平・栗崎晃行（三菱電機）、谷嶋貴志（東芝テックドイツ）  
事務局：立川、内間、小林、濱岡、山本、ラウマイヤー

※当日の緊急連絡先 (0157-3670-2178)

2) 日 時：2023年5月28日（日曜日）7：00～16：00

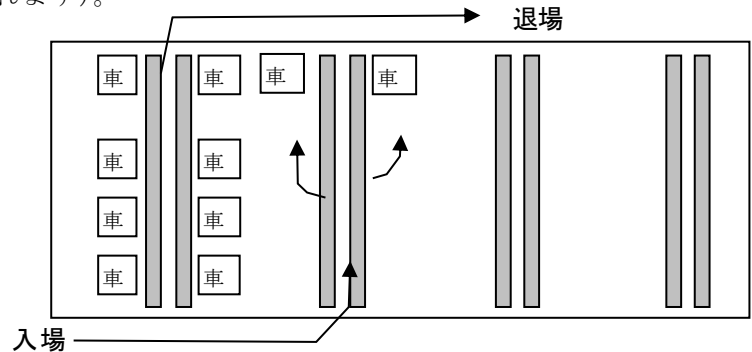
3) 場 所：Merkur Spiel-Arena 屋内競技場隣接の広場に A～H の 8 面を設置する。

## 4) 会場への行き方（別紙参照）：

会場へは（1）電車による行き方と、（2）車による行き方があるので、大会コース地図を参照のうえ来場する（裏面の会場地図を参照）。当日 P2 への入場の際には、会場係員指示に従って駐車する。（尚当日午後は駐車場が混み合う事も想定されます）。

P2 駐車場での基本的な駐車の方法

- ① 2 線の石畳を通過して駐車可能なところまで進む。
- ② 駐車は 2 線石畳の左右の何れかに駐車
- ③ 従って中央となる 2 線石畳のところは駐車禁止。



## 5) 参加チーム：

今大会は計 48 チーム 780 名の参加により行う。参加申込者に追加又は変更がある場合は必ず事前にその変更手続きを行う。試合当日にその変更がある場合も事前にその旨本部に申し出る。  
チーム成立：11 名（内野 6 名+外野 5 名）。ただし、7 名以上の大人（高校生を含む）及び 2 名以上の女性の常時参加出場を条件とする。（補欠メンバーによる選手交代可。ただし、女性から男性への交代は不可。その際は必ず、女性を要員として加える事。）※中学生のみのチーム編成不可（中学生は 1 チーム 2 名まで）※小学生の参加不可。※同一人が 2 チーム以上への出場は禁止。

## 6) 今大会の衛生措置の注意点：

- イ) 風邪の症状がある方は参加をご遠慮いただく。 ロ) コロナウイルスに感染している方の参加は認めない。  
ハ) 消毒液を各面とお手洗いに用意。  
※消毒ウェットタオルは用具を劣化させるため、用具には絶対に使用しないこと。

## 7) 試合開催要領：

イ) 各チーム夫々 2 回の予選試合を行う。ロ) 上位 16 チームにて決勝戦を行い、第 70 回ソフトボール大会の 1 位～16 位を決定する。

ハ) 試合進行要領は次の通り。

7:00 当日は全チームの 2 名の運営準備協力者は会場へ集合。運動部関係者が雨天中止の判断をし、決行の場合は直ちに面作り等の試合開催準備を行う。1-24 番のチームの運営準備協力者が【当該面の面作り】（別紙添付の会場図を参照）を、25-47 番のチームの運営準備協力者は【本部テント・本部席の設営】、48 番のチームの運営準備協力者は【第 2 本部の設営】を行う。

7:30 開会宣言、準備体操

8:00 試合開始

ニ) 面作り

1-23 番のチームの運営準備協力者は夫々下記のチーム毎に該当の面作りを行う。

第 1 会場：A 面=1～3 番、B 面=4～6 番、C 面=7～9 番、D 面=10～12 番 E 面=13～15 番、F 面=16～18 番

第 2 会場：G 面=19～21 番、H 面=22～24 番

ホ) 審判

- ① 主審・1 塁・3 塁に各々 1 名、計 3 名の審判を置く。
- ② 審判は必ず高校生以上が担当する事とし、各審判は別紙試合ルールを完全に理解しておくこと。
- ③ 第 1 試合の A 面～H 面は、下記表の□内チームの 3 名により審判（主審・副審）を行う。

④ A 面～H 面の第 2 試合目以降は、前試合の勝ちチームが同面の審判を責任持って行う。

⑤ 決勝戦の審判は、予選最終試合（13:00～13:45）で A 面～H 面の負けチームが同面での審判を責任持って行う。

- ⑥ 担当の審判は、当該面のボードに用意されている得点表に点数を記入し、試合終了後は必ず本部席に提出する。  
但し、決勝戦の場合は、試合開始前に得点表を本部席から入手すること。
- ⑦ 試合前と試合後に必ずボール・ベース、マスク、キャッチャーミット、カウンター等の用具確認をする。
- ⑧ 主審は対戦チームを読み上げるときに必ず、ピッチャーのフォーム、スライディング、5mラインの注意事項を説明すること。

試合	時間	A面	B面	C面	D面	E面	F面	G面	H面
第1	08:00~08:45	1/2	3/4	5/6	7/8	9/10	11/12	13/14	15/16
第2	09:00~09:45	17/18	19/20	21/22	23/24	25/26	27/28	29/30	31/32
第3	10:00~10:45	33/34	35/36	37/38	39/40	41/42	43/44	45/46	47/48
第4	11:00~11:45	5/7	6/8	10/12	9/11	1/3	2/4	17/19	18/20
第5	12:00~12:45	13/15	14/16	21/23	22/24	29/31	30/32	25/27	26/28
第6	13:00~13:45	37/39	38/40	41/43	42/44	45/47	46/48	33/35	34/36
	14:00~14:15	休憩・決勝組合せ抽選							
決勝戦	14:30~15:15	今試合1位から16位までの決勝戦(下記数字は抽選番号)							
		1/2	3/4	5/6	7/8	9/10	11/12	13/14	15/16
閉会式	15:30~15:50	決勝参加チームの運営準備協力者を中心に、参加者全員で会場の片付け・清掃							

## 8) ソフトボール用具:

- イ) ボール、ベース、マスク、キャッチャーミット、カウンターは日本クラブの用具を使用する。必要用具の搬出搬入は日本クラブ事務局と大会運営委員が責任を持って行う。各個人の持ちこみ用具の管理は各自の責任とする。
- ロ) 用具の使用混雑をさけるため用具を各面に夫々固定する。したがって用具使用後は各面の所定の場所に必ず戻す事。
- ハ) 審判担当者は試合終了後、必ず用具表とその個数等の確認を行い、次の審判者へ引き継ぐ。用具の紛失が判明した場合は、当試合を行った両チームがその弁償責任を負う。但し、第2会場でプールの高いフェンスを超えたボールは例外とする。紛失したボール数を第2本部席まで必ず報告。(プール内進入禁止。後日スポーツ局が回収するため。)
- ニ) 決勝戦終了後、用具の撤収は、担当の審判が夫々責任を持って行い、本部席まで運ぶこと。
- ホ) 原則、グローブは各チームで用意することとするが、無い場合には、試合3日前までに日本クラブから借用すること。  
試合当日の貸し出しはしない。但し、左用グローブに関しては、当日のみ貸し出す。

## 9) 幹事の輪番制:

事前の準備、また当日の試合進行運営等を行う本部の幹事は輪番制という形で行っている。幹事の選出は各大会の優勝並びに準優勝チームより夫々1名選任。幹事の任期は、お互いに負担がかからないよう1年間、すなわち2回の大会を担当とする。

## 10) 会場側よりの注意事項:

- イ) 会場内へのペットの立ち入りを禁ずる。ロ) ゴミ: ① 空弁当等のゴミは各人・チームが責任を持って持ち帰ることとする。会場に設置されているゴミ専用コンテナの使用は禁止する。事前説明会の際に、各チームの代表にゴミ袋を2枚配布する。② 喫煙コーナー以外での喫煙を禁ずる。喫煙コーナーは体育館横に設置。
- ハ) 芝生エリアへのベビーカーの進入は芝生を傷つけるため禁ずる。ニ) 第一会場の体育館横の柱には、絶対登らないこと。当日は禁止マークエリア指定。ホ) トイレはマナーを守り、きれいに利用すること。
- ヘ) 会場施設内の水道水は飲料用としては未検査のため、飲料水としては使用不可。

## 11) 会場使用禁止区域:

ソフトボール大会会場として賃借しているのは「大会会場図」の中の8面(A~H)をとっている箇所のみである。従ってその他の区域に関しては原則使用及び立入禁止とする(室内競技場のトイレを除く)

## 12) 選手以外の方への注意:

試合中に選手以外の方がフィールド内へ入ったり横切ったりすることは、危険防止等のため厳禁とする。本部席前ノープレイエリアへの打球はフリーとし捕球も可能とするが、エリア内での練習は禁止とする。また、参加者の怪我その他事故に関し、日本クラブでは一切責任を負わないものとする。また、子供連れの参加者は子供が試合面に入らないように要注意。

## 13) 救急車:

大会開催中は救急車を待機させている。チームの中で怪我人が出た場合は、チームの責任者は必ず本部席に、その旨報告する。※各面の試合得点ボード付の「事故報告書」に記入。尚、当日救急車で病院へ運ばれた場合、後日、本人宛に実費請求される。

## 14) 保険:

本大会の参加者には最低限度の賠償責任保険をかけているが、傷害保険はかけていない。従って怪我に関して保険は適用されず、当人の責任とする。参加者また応援関係者も必ず、保険証を持参すること。

## 15) 中学生の参加:

中学生単独での参加は、有事における責任の所在の観点から認められない。また、審判は必ず高校生以上の大人が担当するものとし、中学生の審判は認められない。中学生に関しても大人と同様、怪我に関しては当人および引率者の責任とする。

## 16) その他:

- イ) 屋台の出店: 無し
- ロ) お弁当: ・日向 お弁当(飲み物付き) €20 ・松竹 幕の内弁当(飲み物付き) €18  
・どんたく 唐揚げ弁当、味噌カツ弁当、野菜天ぷら弁当 各€12 鮭味噌弁当 €13
- ハ) その他出店: GH TRADING 浄水器の試飲(本部テント横にて)。
- ニ) 優勝チームはコメントを日本人会報に掲載のためチーム写真と原稿(300~400字程度)を5月31日(水)までに送付願います。

# 日本クラブソフトボール大会試合方法

## 1) 試合の成立

- イ) 試合は7回戦とする。但し45分間過ぎた場合は新しいイニングに入らない。
- ロ) **試合開始45分後に終了のサイレン。その後、試合開始55分後に最終サイレンが発せられた時は、その時の打者が打ち終わった時点で試合は終了する。得点表には全得点を記入する。**
- ハ) 試合開始時刻を15分過ぎても相手チームが集合しない場合は自動的に不戦勝とする。また試合中、欠員によりチーム編成を満たさない時点で負けとする。**詳細は別紙：審判員について- 得点表の記入を参照。**
- ニ) チーム構成は、1チーム11名（内野6名+外野5名）。但し、7名以上の大人（高校生を含む）及び2名以上の女性が常時試合出場を条件とする。（補欠メンバーによる選手交代可。）また、中学生の参加は1チーム2名まで。  
 ※中学生単独での出場は、有事における責任の所在の観点から認められない。小学生は参加不可とする。  
 同一人が2チーム以上への出場は禁止とする。
- ホ) 試合途中、欠員によりチーム構成が満たさなくなった時点で負けとする。
- ヘ) 勝ち点・・・2点、引分け・・・1点、負け・・・0点

## 2) ルール

基本的には通常のソフトボールルールに従って行うが、本大会特別ルールを下記のように定める。

### イ) 投球

- ① ホームベースからピッチャーズプレートまでの距離を12mとする。
- ② 3ストライク三振でバッターアウト、4ボールで四球、3アウトで攻守交替とする。
- ③ ピッチャーの手からボールが離れるまで、ランナーは離塁してはならない。
- ④ ピッチャーは両足を必ずそろえてピッチャーズプレートに立ってセットポジションし、両肩をキャッチャーに向けて投球する。腕を回して投球してはいけない。（別紙投球フォーム参照）尚、違反投球した場合、1球目は警告のみとするが、2球目からはボールとする。
- ⑤ デットボールは無しとする。
- ⑥ ストライクは、バッターの脇から膝までの間とホームベース上（左右はベース巾の範囲内）を通過したものとするが、その判定は審判の一任とする。但し、極端な山なりでボールがホームベースに落ちた場合は、またホームベースを通過しなかった場合、これをボールとする。  
 補定点：キャッチャーが捕球する際のグローブの向きや高さは、関係ありません。  
 上記のストライクゾーンを通過している場合においては、キャッチャーのグローブが上向、横向状態で捕球、捕球出来なかったとしてもストライクとする。
- ⑦ 投手の投球回数は、試合開始前5球、攻守交替中3球までとする。また、試合時間を遅らせるような行為に関しては、審判の判断に従い即時試合を開始する。

### ロ) 打撃

- ① 各チームが打順を守るということ。ラインアップを作って審判に渡す必要は無し。
- ② 打者はホームベースの真横に立つ。
- ③ キャッチャーフライは打球がバッターの頭より高く上がった場合のみ有効とする。但し、3ストライク目のファウルチップを捕球した場合には三振となる。
- ④ インフィールドフライは適用しない。
- ⑤ クロスプレーは同時アウトとする。
- ⑥ バントは認めない（グリップにおいて手を離し振り抜かない状態）。もしバントを行った場合はストライクとする。振り逃げなし。

### ハ) 守備

内野6名、外野5名とする。但し、外野はピッチャーの手からボールが離れる前に塁線内に入れない。

### ニ) 進塁

- ① プレイングフィールド内はフリーとする。打球及び送球がプレイングフィールドより観客席へ入った場合はワンベースとする。この時の打者は2塁までとする。
- ② 盗塁はいかなる場合にも認めない。牽制球も禁止とする。
- ③ タッチアップの進塁は認める。
- ④ ピッチング時の暴投は進塁できない。
- ⑤ 塁間は18,3mとする。
- ⑥ 金属製スパイクは禁止する。プラスチックスパイクは使用できる。
- ⑦ ピッチャーの手からボールが離れる前にランナーが離塁した場合のランナーはアウトとなり、ボールはインプレーです。
- ⑧ ピッチャーの手からボールが離れた後にランナーが離塁した場合で、打者が打たなかった時は帰塁義務が生じる。
- ⑨ 守備者に脅威を与えるようなスライディングは禁止するが、その判定は審判の一任とする。危険なスライディングと判定された場合は守備妨害の為アウトとする（危険なスライディング例：守備者目掛け足をあげてのスライディング等）。

## ホ) キャッチャー

キャッチャーは怪我防止のため原則キャッチャーマスクを装着すること。

## ヘ) 延長戦

延長戦は無し。勝敗がついていない時は引き分けとする。但し、決勝戦の場合は代表3名によるジャンケンで勝敗を決める。

## ト) 天候不良時

悪天候の為試合の続行が不可能と判断された場合には、その時まで終了している試合の結果をもって勝敗を決定する。

## 3) 観客席 / ファウルフライボールフェアライン (ボールデットライン)

観客席は1塁側と3塁側に夫々塁線より5mの間隔で、同線と平行に線を引いて設ける。この5mフェアライン (ボールデットライン) は外野まで有効であり、従って打者が撃ったファウルフライボールが、その5m以内で捕球された場合のみアウトとなる。5mフェアライン (ボールデットライン) を超えたボールを捕球してもアウトにはならない。

## 4) その他

判定について

試合中の判定は主審に委ねられるが、判定に対する異議申し立てに解決が見込めない場合、一旦本部席 (運動部長まで) 連絡する。また、審判への申し立ては、各チームの代表者のみ1名とする。

ランナーコーチについて (ランナーコーナーをつけるチームの場合)

1・3塁ベースより3メートルの位置 (5mフェアラインの真ん中程) に【角線を引いてあり、そのボックス内で行う。

第2会場 (G面・H面) のロングヒットの走塁について

高いフェンス (柵) 超えの場合はホームラン。低い手すり超えの場合 (フライ、ゴロいずれでも) は2塁まで。

## 5) 予選から決勝進出選抜ルール

### イ) 予選

次の①～②、且つこれが同じの場合③④を適用し順位を決定する。

- ① 勝ち点の大きい方が上位
- ② 得失点差の多い方が上位
- ③ 得点の多い方が上位
- ④ 代表3名のジャンケン、但し17位以下は不要。
- ⑤ 決勝進出しないチームの同成績は、同順位 (複数同順位)

### チ) 決勝

決勝戦の組合せは抽選により決定する。決勝戦の結果で次の①～③、且つこれが同じの場合④～⑥を適用し順位を決定する。

- ① 予選を含めた総勝ち点の多い方が上位
- ② 予選の得失点差 (25点足きり) に決勝の得失点差を付加した総合得失点差の多い方が上位
- ③ ②が同じの場合は、総得点の多い方が上位
- ④ 予選の得失点差の多い方が上位
- ⑤ 予選の得点の多い方が上位
- ⑥ それでも同じの場合は、代表3名によるジャンケン

### 【 注 意 事 項 】

試合開始前、主審は必ず両チームに下記のプレイボール時の注意事項を説明すること。

#### ピッチャーフォーム

- 投球違反 - セットポジションの際足が揃っていない
  - 振り被った際に腕が上がりすぎている、
  - サイドスロー等は違反となる。
- 尚、違反投球した場合、1球目は警告のみとするが、2球目からはボールとする。

#### スライディング

- 危険なスライディング - 着塁直前でのスライディング
  - 守備へ向かって足を上げてのスライディング等
  - 危険なスライディングはルール違反となる。
- 危険なスライディングと判定された場合は守備妨害の為アウトとする。

#### 5mラインについて

- 5mライン外のボールは捕球してもファウルとなる。

## 審判員について

### 注意事項（主審）

試合開始前、主審は必ず両チームに下記のプレイボール時の注意事項を説明すること。

#### イ) ピッチャーフォーム

- 投球違反 - セットポジションの際足が揃っていない、  
 - 振り被った際に腕が上がりすぎている、  
 - サイドスロー等は違反となる。  
 → 尚、違反投球した場合、1球目は警告のみとするが、2球目からはボールとする。

#### ロ) スライディング

- 危険なスライディング - 着塁直前でのスライディング  
 - 守備へ向かって足を上げてのスライディング等  
 - 危険なスライディングはルール違反となる。  
 → 危険なスライディングと判定された場合は守備妨害の為アウトとする。

#### ハ) 5mライン（ボールデットライン）について

- 5mライン外のボールは捕球してもファウルとなる。

#### 二) キャッチャーの立ち位置について

- 走者とぶつかる危険があるため、キャッチャーはホームベース上に立たない。

## 審判員の任務

### イ) 試合開始前

- ① 用具の確認
- ② 選手の整列指示
- ③ チーム編成確認（1チーム11名〔内野6名+外野5名、7名以上の大人[高校生含む]及び2名以上の女性〕）  
 中学生は1チーム2名まで。小学生は参加不可。
- ④ 対戦チーム読み上げ、注意事項の説明（投球フォーム、スライディング、5mライン）

### ロ) 試合中

- ① 投球、打撃、守備、進塁の判定
- ② 得点表の記入、選手交代の許可

### ハ) 試合終了後

- ① 選手の整列、挨拶
- ② 用具確認
- ③ 得点表の提出（本部席へ）

### 二) トラブル対応

- ① 怪我人の発生時、ルール違反時のペナルティ、審判に対する講義など

## 審判員の権限

主審の権限：試合における全ての判定が委ねられる。

- ① キャッチャー背後に立ち、試合の適切な運営のために副審と協力をする。
- ② 打球のフェア・ファウル、走者のセーフ・アウト、投球のストライク・ボールなどを宣告。  
 副審はベースにおける判定をするために1塁と3塁の位置につく。主審の指示のもと、判定を補佐する。
- ③ ルール違反に対してペナルティを与える。

特記点

- ピッチャー投球の違反： 1球目は警告のみとするが、2球目からはボールとする
- 危険なスライディング： 守備妨害のためアウトとする。
- デットボール無し： ボールとする。
- チーム編成の違反： 7名以上の大人と2名以上の女性は常時試合出場していない時、失格とする。

## 審判員の交代

試合中、審判の交代は可能とする。※なるべく主審については同じ人が行うのが望ましい。

## トラブル対応

- 負傷者の発生時は試合を一時中断する。

- 試合中の判定は主審に委ねられるが判定に対する異議申し立てに解決が見込めない場合、一旦本部席（運動部長まで）連絡する。※審判への申し立ては、各チームの代表者のみ1名とする。

## 得点表の記入

- 試合終了の最終サイレンが発せられた時は、その時の打者が打ち終わった時点で試合は終了する。
- 得点表には全得点を記入する。
- 試合開始時刻を15分過ぎても相手チームが集合しない場合は自動的に不戦勝とする。  
不戦勝の場合は、計得点7（失点0 勝ち点2）とする。

- 試合中、欠員によりチーム編成を満たさない時点で負けとする。その場合、負けチームは計得点0記入する。

**例1)** Aチーム8点 対 Bチーム3点の時、Aチームの女性が途中欠員し、チーム不成立で試合終了。

→ Aの計得点0点（失点0 勝ち点0） Bの計得点3点（失点0 勝ち点2）

**例2)** Aチーム8点 対 Bチーム0点の時。同様にAチーム不成立ならば、A・Bともに計得点0点で引き分け。

→ Aの計得点0点（失点0 勝ち点0） Bの計得点0点（失点0 勝ち点1）

## 選手交代（打者、捕手、走者）について

試合中、最終回まで交代可能（交代回数に制限無し）。但し、以下の場合は認められない。

- ① 一度ベンチに下がった選手が再度プレーする
- ② 女性の欠員に対して男性を要員として加える

※選手交代時、各チームは必ず審判に申告するよう促す。

チーム編成の成立条件（1チーム11名（内野6名+外野5名））を満たしていれば許可する。

但し、7名以上の大人（高校生含む）及び2名以上の女性が常時試合出場とする。

補欠メンバーによる選手交代可能。但し、女性から男性への交代は不可。その際は必ず女性を要員として加える事。

## その他

副審判の立ち位置についてアドバイス

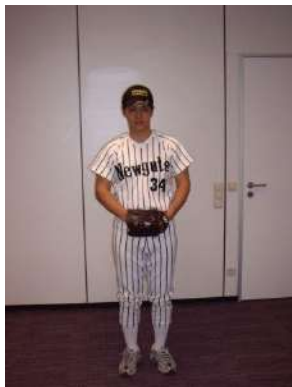
走者が駆け抜けていくため、ベースの真横ではなく、通常はベースより少し後ろ側（少し外野より）に立つと良い。

（または、ラインを跨いで立つ）

以上

# Düsseldorf 日本クラブソフトボール大会投球フォーム

## 良い例



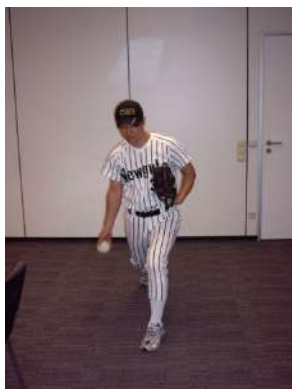
- 1**
- ① ピッチャーのマウンド・ラインに立ち、ホームベース正面を向く。
  - ② セットポジションの姿勢。



- 2**
- ① セットポジションより真後ろに投球する腕を振り上げる。
  - ② 振り上げた腕はほぼ地面に平行を上限とする。
  - ③ ひじは伸ばしたままで、手首、ひじを異様に曲げない。



- 3**
- ① 後方より振り上げた腕の反動を利用してホームベースへ投球する。
  - ② 体はホームベースを向き、回転させない。



- 4**
- ① 腕の離れは体側から10cm程度以内を限度とする。
  - ② 上体は左右に傾かせず顔、上体共ホームベースを向く。

## 悪い例



- 5** ① ひじ、手首を曲げており、セットポジションから真っすぐ後方に腕を振り上げていない。
- ② 特に手首の回転による投球。



- 6** ① 腕が大きく後方に振り上げられている。



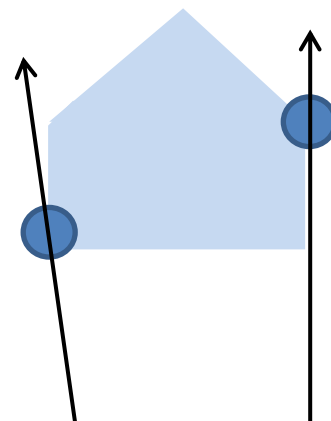
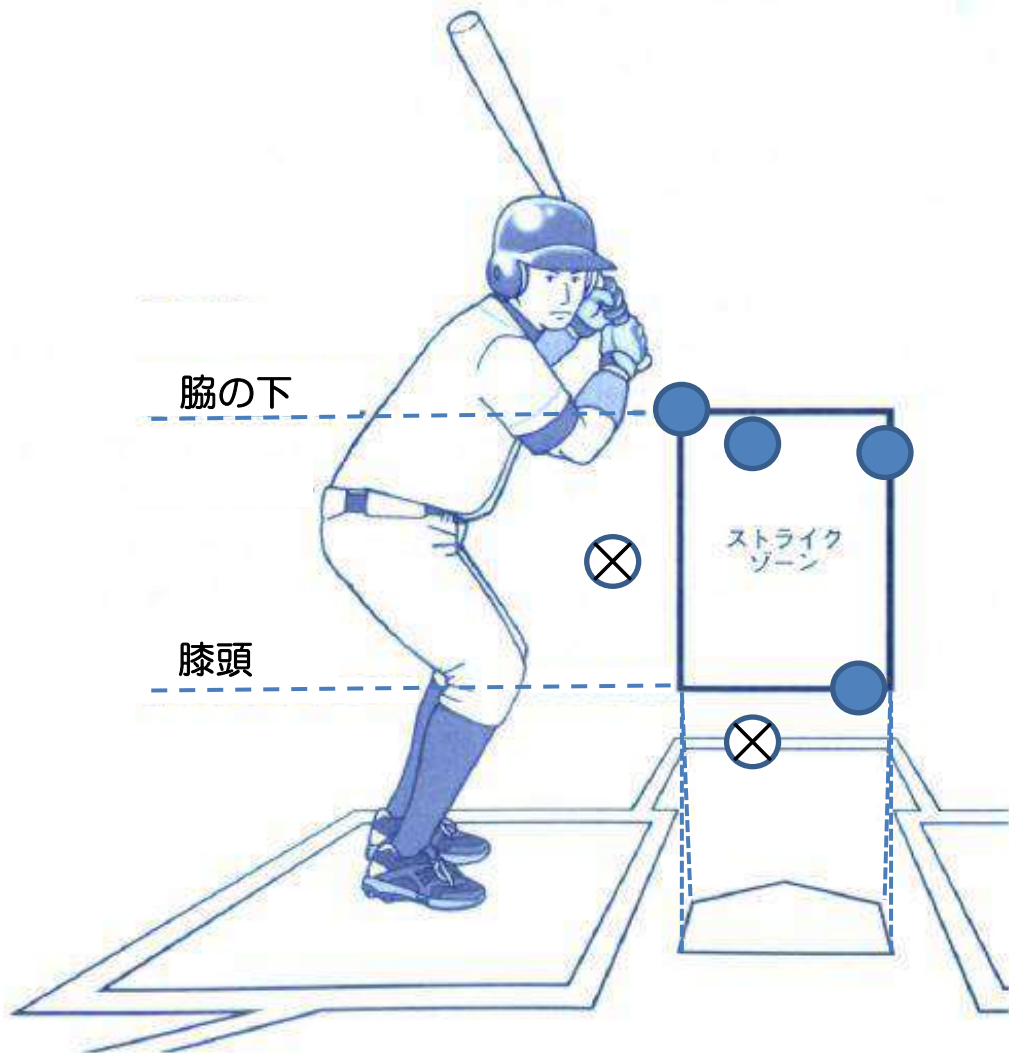
- 7** ① 投球時、体と腕が大きく離れており、サイドスローに近い状態。



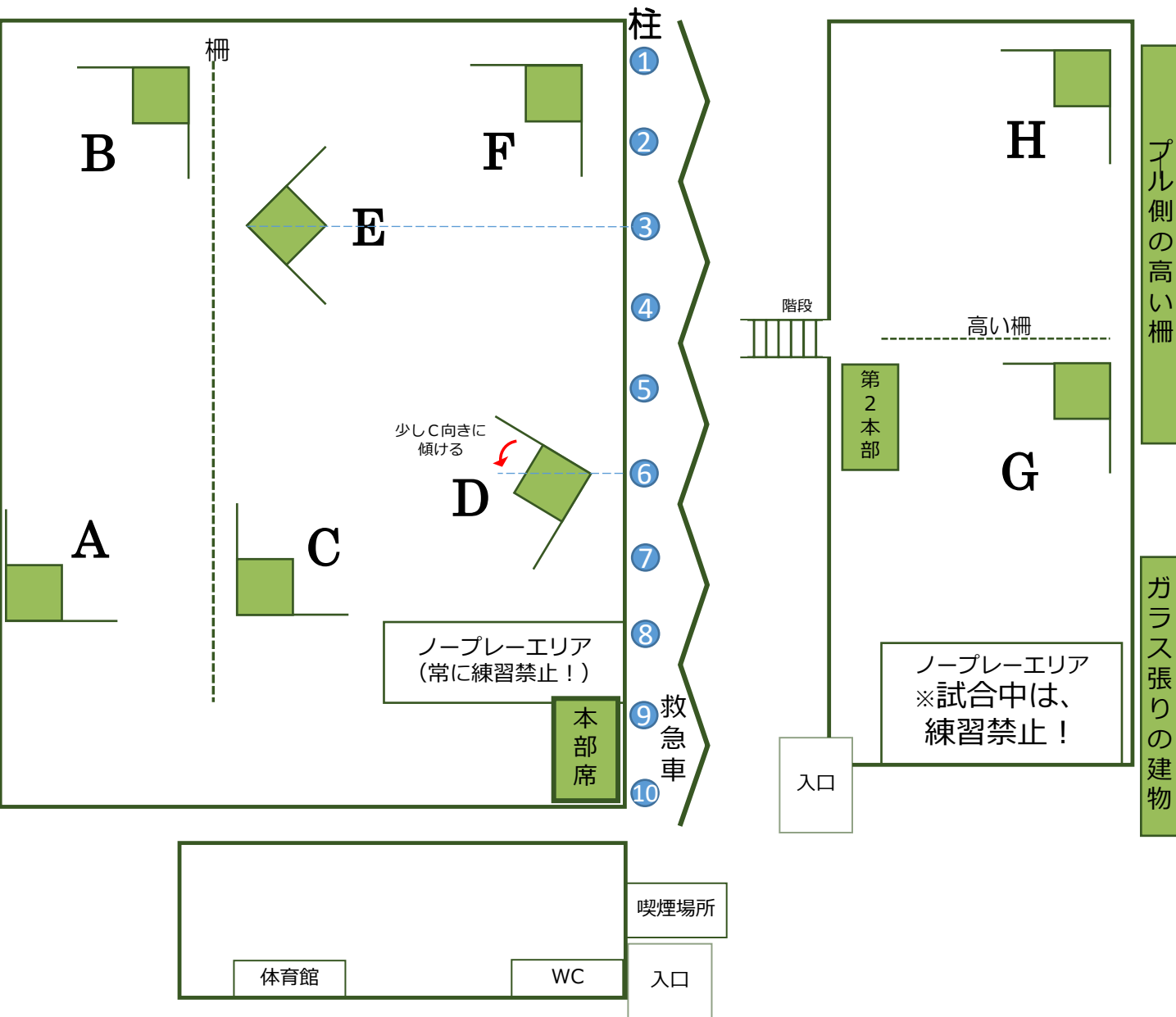
# ストライクゾーン

(日本クラブソフトボール大会ルール)

● ストライク  
⊗ ボール



# ソフトボール大会の会場（各試合面）



## 面作り担当チーム

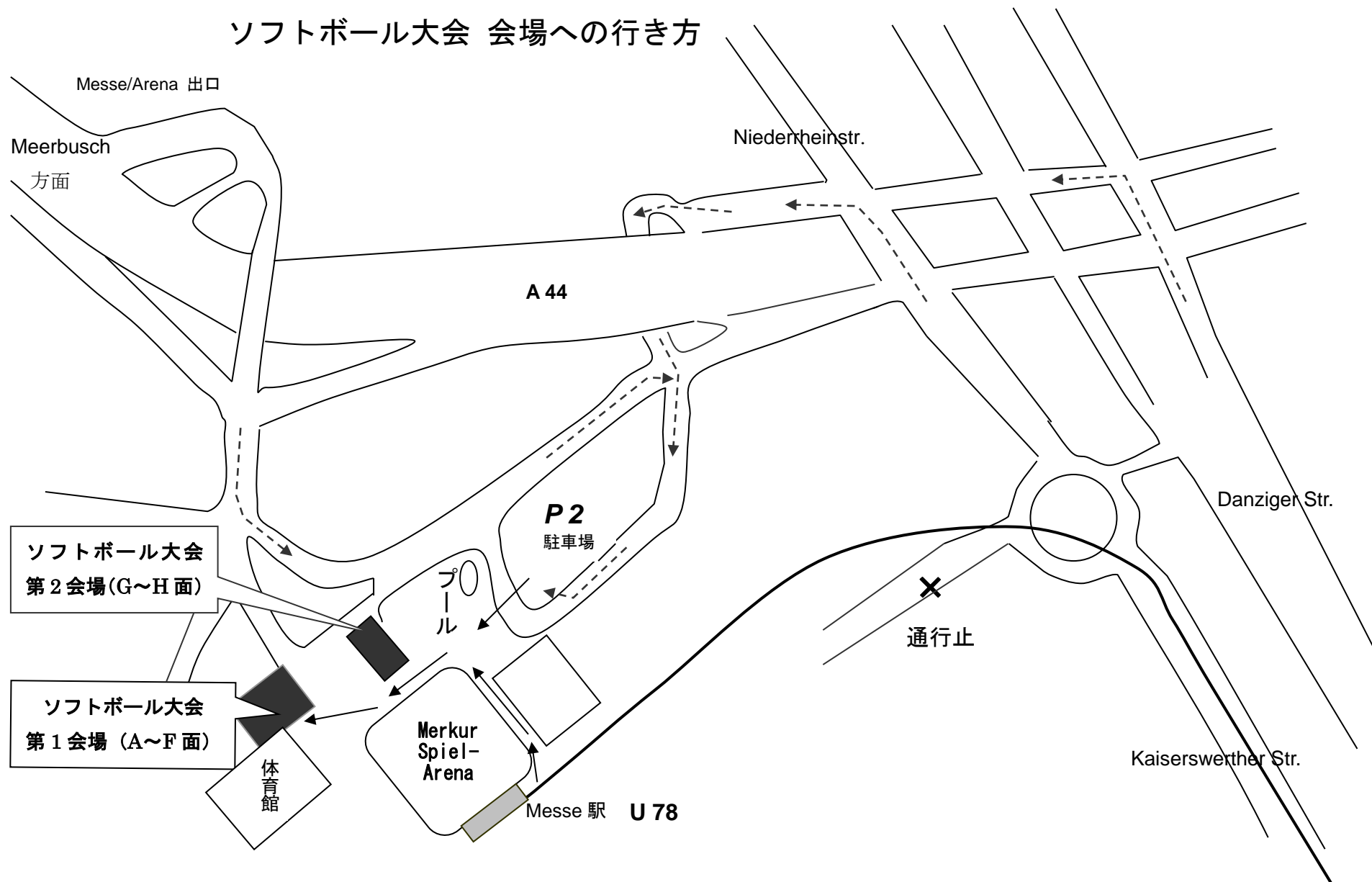
1-24番のチームの運営準備協力者は夫々下記のチーム毎に該当の面作りを行う。  
 第1会場: A面 → 1~3番, B面 → 4~6番, C面 → 7~9番, D面 → 10~12番,  
 E面 → 13~15番, F面 → 16~18番,  
 第2会場: G面 → 19~21番, H面 → 22~24番

## 面作り

- ① 7時半の開会式に間に合うように、各チームの責任者、第1試合を行う該当面の面作りを担当する。
- ② ライン引きの注意点: 塁間18,3m、ピッチャーズプレート・ホームプレート間12m、レフと線・ライト線のラインを十分に引く約10m、キャッチャー後ろのファールラインをしっかりと引く、ファールライン（ボールデットライン）は塁線より5mの間隔で十分長めに引く。※作成方法は、当日の得点ボードに添付した面作り資料を参照。

注: 今回賃借している会場は上記の8面(A~H)を取っている2箇所の区域のみである。従ってその他の区域に関しては原則使用禁止となっているので立ち入らないように注意する。※**ノープレーエリアでは、基本、練習禁止とする。**

# ソフトボール大会 会場への行き方



◎車で来る人は上記の P2 の駐車場を目指し、点線の矢印に沿って進行、駐車し、実線の矢印に沿って来場する。

◎電車・バス利用の方は終点 (Messe/Merkur Spiel-Arena) で降り、実線の矢印に沿って来場する。